

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

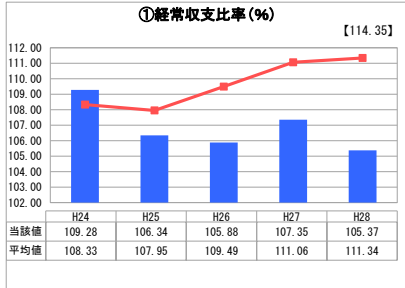
神奈川県 山北町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金 (円)	
-	82.94	98.41	1,479	

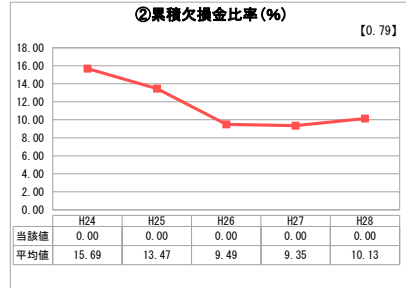
人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
10,842	224.61	48.27
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km <sup>2</sup> )	給水人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
10,592	8.15	1,299.63

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 平成28年度全国平均

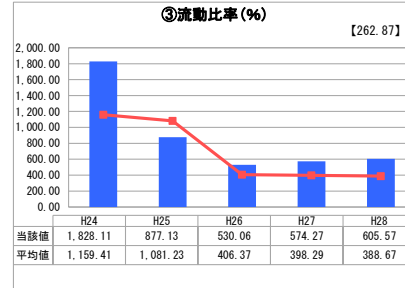
## 1. 経営の健全性・効率性



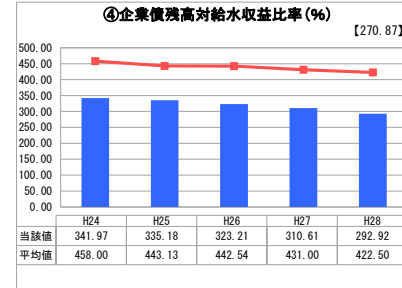
「経常損益」



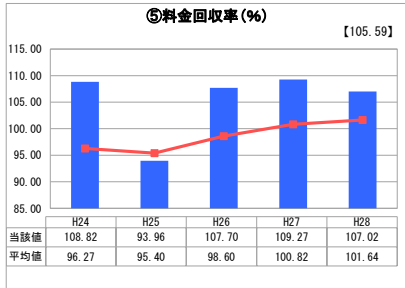
「累積欠損」



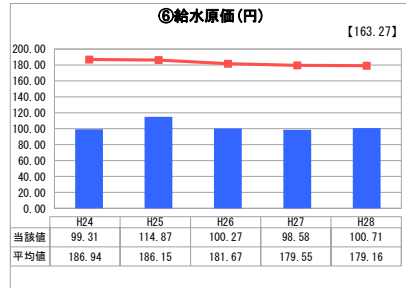
「支払能力」



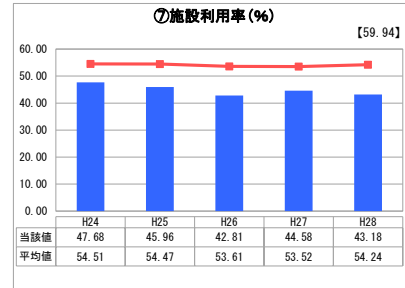
「債務残高」



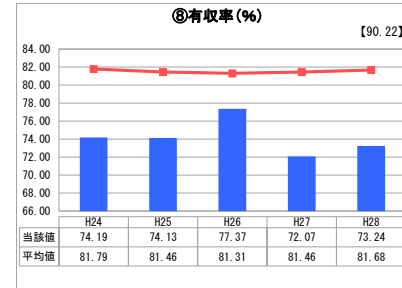
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

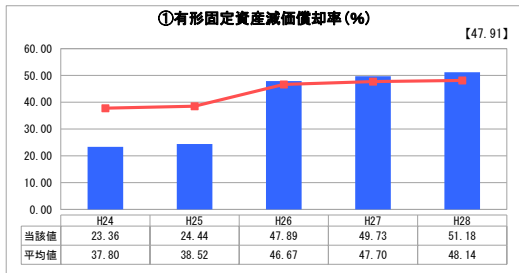


「施設の効率性」

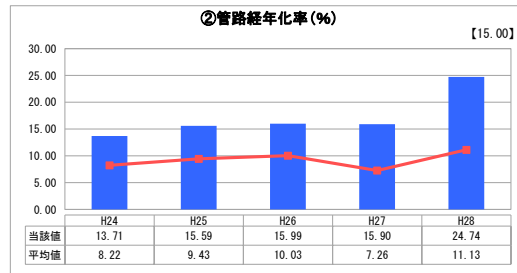


「供給した配水量の効率性」

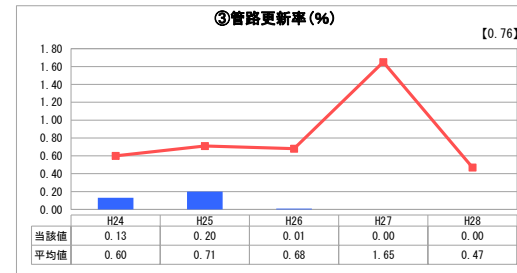
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率100%以上、累積欠損金比率0%、流動比率100%以上であり、企業債残高対給水収益比率も類似団体内では低く、料金回収率は100%を超える水準となっています。この指標で表した結果を分析すると比較的健全な経営といえますが、一方で企業債残高対給水収益比率、管路経年率、管路更新率について類似団体と比較して総合的にみますと、管路更新の遅れなどにより、新たな企業債の借入れを行っていないため、企業債残高が減少傾向に進み、指針としては健全経営となっている一面も考えられます。

また、施設利用率が低いのは、当町は居住地域が広範囲にあり、人口の割合からすると給水施設が多くなるため利用率が低くなってしまっています。平成24年度以降徐々に下がりが続いていますので、今後も動向に注意してまいります。

なお、類似団体と比較して有収率が低いのは、本町の立地条件から高低差のある山間部に配水管が布設されているため、なかなか漏水場所の特定が難しく、修繕につながっていません。今後は、計画的に布設替え等検討していく必要があります。

### 2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率、管路経年率が類似団体内で高い水準になっている一方、管路更新率が低くなってきています。これは当町が下水道工事に併せ平成元年から平成15年度頃まで集中して管路更新を行い、以降は工事規模が縮小している状況です。

今後は耐用年数を考慮した布設替え計画の検討が必要と思われます。

### 全体総括

平成12年に料金改定を行って以来、努力を重ねてまいりましたが、企業債残高対給水収益比率の分析結果を総合的に考えると、料金改定と管路の更新を計画的に行ってゆく必要があると思われます。

また、下水道工事に併せて一定時期に集中して布設替えを行っている中で、この先同じように管の更新時期が重なることや、さらに施設の老朽化も進みますので、全体的に費用がかかることが見込まれます。今後は全体的に標準化した更新計画を考え、給水収益が減少傾向にある今日、さらなる企業努力を行うとともに、経営改善を図っていく必要があると思われます。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。